

**令和3年度宮城県試験研究機関評価委員会
第1回農業関係試験研究機関評価部会
研究課題に係る評価実施結果**

1 評価委員

評価委員名	所属・職名等	摘要
中村 聡	公立大学法人宮城大学食産業学群 教授	部会長
菊地 郁	公立大学法人宮城大学食産業学群 准教授	副部会長
麻生 久	国立大学法人東北大学大学院農学研究科 教授	
西條 由美恵	農業者	欠席
佐々木 均	農事組合法人仙台イーストカントリー 代表理事	

2 評価対象課題

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
高軒高ハウスを活用した果菜類の高収益生産技術の確立	高リコペン含有トマトの安定栽培技術及び寒冷地の長段どりパプリカの栽培技術を確立し、本県の気象に適した高軒高次世代型施設における栽培管理技術の確立及び更なる高収益化を図る。	平成30～令和2年度	4,181千円	事後評価
大規模施設園芸経営体における作業労力の確保と適正な栽培管理手法の開発	大規模施設園芸経営体において、雇用作業者の確保や雇用作業者の能力向上を図る手法を確立すると共に、今後同経営体での就労希望がなされるようになる要件を明らかにする。	平成30～令和2年度	1,748千円	事後評価
暗渠を利用した土壌水分コントロールによる水田基盤活用技術の確立	暗渠を利用した土壌水分コントロールが大豆作に及ぼす塩害抑制効果を検証し、暗渠の多目的活用技術を示す。	平成28～令和2年度	6,421千円	事後評価
病害診断における遺伝子解析技術の開発と活用	園芸品目の主要病害について、これまでに国内外で開発された病害診断技術をリスト化して診断メニューを作成するとともに、リスト化した遺伝子解析による病害診断技術を用いて依頼診断等に対応するなど、本県における病害診断体制を確立する。	平成30～令和4年度	5,926千円	中間評価

3 評価項目

(1) 事後評価

- イ 目標の達成度
- ロ 研究成果
- ハ 地域への貢献度・波及効果
- ニ 総合評価

(2) 中間評価

- イ 計画の進捗度
- ロ 情勢変化等への適合性
- ハ 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し
- ニ 総合評価

4 評価結果（コメント等は別紙参照）

- (1) 高軒高ハウスを活用した果菜類の高収益生産技術の確立（事後評価）
A「優れた研究であった」

- (2) 大規模施設園芸経営体における作業労力の確保と適正な栽培管理手法の開発（事後評価）
A「優れた研究であった」
- (3) 暗渠を利用した土壌水分コントロールによる水田基盤活用技術の確立（事後評価）
B「妥当な研究であった」
- (4) 病害診断における遺伝子解析技術の開発と活用（中間評価）
A「計画どおりである」

5 研究課題評価表

別紙のとおり。